

Nagano University



公立大学法人 長野大学
地域づくり総合センター
ニュース 2024



01 多様な就職観を持つ学生に地方宿泊業はどう映るのか

～働き手不足に悩まされる地元老舗旅館を調査～



「かしわや本店」の現状を調査して改善策を提案

上田市別所温泉にあるかしわや本店は、百年以上の歴史がある老舗旅館です。そんなかしわや本店も、近年、社会問題となっている「働き手不足」に悩まされていました。特に新卒採用については、大手求人サイトへの情報掲載や地元の学校を中心に就職ガイダンスを実施するなど、精力的に職場の魅力を宣伝してきましたが、今もお、働き手不足に悩まされ続けています。そこで多様な就職観を持つ学生の考えを聞きたいと考えたかしわや本店から長野大学に協力の依頼がありました。この依頼に対し、「労働の未来」をテーマに活動する企業情報学部の松永伸太郎准教授のゼミが関心を持ち、連携が始まりました。旅館側と学生側の二つの視点で調査を行い、調査結果をかしわや本店に報告しました。

どんなプロジェクト？

活動している学生のコメント



今井 柚月さん

企業情報学部 2 年

今回のプロジェクトは「就職活動を行う学生側の視点」と「採用活動を行う企業側の視点」の双方向から課題を捉え、分析を行う必要がありました。アンケート調査やインタビュー調査を実施する中で、「学生側から見た宿泊業に関する偏った印象」や「企業側から見た、Z世代に対する不安感」など実情が浮かび上がってきました。今回のプロジェクトは、数ある事例の 1 つにすぎませんが、今後「労働人材不足問題」を考えていく上で互いの実情を知り、レッテルの解消を行うことは、現代において重要だと感じました。



実際に、かしわや本店を訪れ、従業員の方にインタビュー調査を行いました。調査結果をもとに学術的な視点から、かしわや本店に適する人材像の再考や問題点の確認を行いました。



02 地域住民と学校がともに学校運営に取り組むコミュニティ・スクール

～「子どもの明日を考える」丸子まちづくりセミナー～



学生と地域住民がこれからの学校運営を考える

どんな活動？

丸子まちづくり会議※が主催する丸子まちづくりセミナーは「地域と学校が協働して子どもを育てていくためにはどうすればよいか」「持続可能な地域・まちづくりを行うためにはどのようなしたらよいか」を地域住民が主体的に考える場です。社会福祉学部早坂淳教授のゼミは、これまでに丸子まちづくり会議と連携・協働を重ね、累計三回の講演会と六回のセミナーの運営に貢献してきました。セミナーでは学生がグループワークの進行役となり、対話を重ねることで、地域との絆を紡いできました。定期的開催される本セミナーは、地域に学びが蓄積されることにつながっています。

※上田市が推進する分権型自治の基礎となる、新たな住民自治組織

活動している学生のコメント



早川 唯南さん
社会福祉学部 3年

「子どもの明日を考える」丸子まちづくりセミナーでは、参加者同士が対等に意見を交わすよう、年齢や肩書きに関わらず、お互いをニックネームで呼び合うよう工夫がなされています。このような議論の場では、対話を重ねる過程で「世代を超えた共感の心」や「同じ地域住民としての絆」が生まれていきます。私は将来、特別支援学校の教員になりたいと考えており、この経験を通じて、「一人ひとりの違いを尊重しつつも、その垣根を超えて絆を紡ぐことができる」教員になりたいです。



12月12日に丸子文化会館で開催された、「子どもの明日を考える」第六回まちづくりセミナーの様子になります。小・中学生から高齢者まで幅広い年齢層が集まり、対話を重ねました。



～レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』～



文化庁より日本遺産サポーター大学として認定

どんな活動？

令和二年に『レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」』龍と生きるまち信州上田・塩田平』が日本遺産に認定されました。これをきっかけに、日本遺産を活用した、地域活性化プロジェクトが発足しました。学生が主体となり、これまでに塩田平の文化や歴史について学びを深めてきました。

具体的な活動としては、日本遺産に認定されたレイライン※を地域の方々と一緒に観察するイベントの企画・運営などが挙げられます。こうした活動実績が文化庁に認められ、令和六年に、「日本遺産サポーター大学」として認定を受けました。引き続き、「地域の方々との協働」を大切に、地域の活性化に貢献していきます。

※夏至の朝日が照らす光の線のこと。
信濃国分寺、生島足島神社、別所温泉が一本の直線状となり、塩田平のレイラインをつないでいます。



活動している学生のコメント



古賀 寛也さん

環境ツーリズム学部 2 年

日本遺産を捉える上で、「遺産として価値を評価するだけではなく、その遺産をどう現代の世に活かしていくかを考えていくこと」が大切だと感じています。2024年には、夏至と冬至の日に炊き出しを行なうなど、様々なイベントを企画し、開催してきました。活動する中で、「地域に出て、地域の方々と協働する」経験を体現できたように感じます。今後のビジョンとしては、活動の「持続」「拡大」「繋がり」に焦点を置き、より一層、日本遺産の活用に向けた取り組みを考えていきたいです。



12月21日に生島足島神社で開催された冬至の日の入り観測会の様子になります。訪れた人々に「地元産のコーヒー」や「地元食材をふんだんに使った冬至鍋」を振る舞いました。

